

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本銀行福岡支店営業所	階数	地上5F、地下1F
建設地	福岡県福岡市中央区天神4-2-1	構造	SRC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	98人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2017年10月10日
敷地面積	6,402 m ²	作成者	内野克康
建築面積	3,120 m ²	確認日	2017年10月10日
延床面積	9,241 m ²	確認者	池田琢



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.9</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.9

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2のスコア = 4.5</p>	<p>Q3のスコア = 4.1</p>

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 3.7</p>	<p>LR2のスコア = 3.3</p>	<p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>①ライフサイクルコストの削減・・・イニシアル、ランニングコスト削減 ②社会要請への配慮・・・デザイン継承、環境配慮、バリアフリー対応 ③業務機能性の高い施設・・・明快な配置、施設ゾーニング、動線計画 ④災害時に於ける業務継続・・・地震、洪水を想定した施設計画、免震構造の採用</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・適切な設定により快適空間による省エネ施設を実現。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ゆとりのある施設計画による執務空間の確保、リフレッシュスペースを設置。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・熱負荷を抑制した建物外皮による外観デザイン。 ・効率的な設備システムの採用。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・雨水、中水利用。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・建設、解体時を考慮した施設計画、省エネ手法、自然エネルギー利用等によるLCCO₂削減</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される